

障害のある方・ご家族の方にお話を伺いました

◆早坂洋子さん（みやぎ盲ろう児・者友の会 会長）



早坂さんは生まれつき目と耳が不自由な盲ろうの障害があります。目は少し見えるため、大きな文字での筆談や、簡単な手話を使い会話ができますが、コミュニケーションがうまく取れず大変なこともあります。早坂さんは普段からバスを使っていますが、バスが急停止した際など、アナウンスが聞こえないことから、何が起きているかわからず不安に思うこともあるそうです。

「現在の社会では、障害者への理解が進んでいないと感じることが多いです」と早坂さん。例えば、何か問い合わせをしたいとき、連絡先に電話番号しか記載されていない場合、一人では連絡を取ることができません。ファクス番号やメールアドレスも書かれていれば、支援がなくても連絡ができます。「条例ができることで、少しでも多くの方の障害に対する理解が進むことを期待しています」と話していました。

◆佐々木智賀子さん（みやぎ脳外傷友の会 七夕代表）

佐々木さんの夫は16年前に脳出血で倒れ、高次脳機能障害と診断されました。高次脳機能障害とは、脳にダメージを受けたことにより、記憶障害や感情のコントロールができないなどの症状が引き起こされるものです。それまで佐々木さんは障害について特に考えたこともなく、自分とは全く別世界のことだと思って暮らしていました。

夫の障害が判明してからしばらくの間は、外出や人と接することを避け、自宅にこもった生活を送っていたそうです。「このままでは自分も夫もだめになると思い、障害について勉強し、同じ悩みを抱える人たちと意見を共有するため、友の会を立ち上げました。障害は、誰の身にも起こること。一番近くにいる家族が理解し支えることはもちろんですが、誰もが障害を身近なものとして考え、社会全体で支える仕組みができればうれしいです」と話していました。



障害を理由とする差別の解消に向けて



8月27日に行われた仙台市障害者施策推進協議会

市では現在、障害を理由とする差別の解消を推進するための条例の制定について検討しています。障害がある人もない人も、共に安心して暮らせる社会を実現するために、障害について考えましょう。

障害のある方を取り巻く現

身体や精神などに障害のある方は、社会生活の中でさまざまな「生活のしづらさ」を感じています。目が見えない、歩けないなど、その人の障害だけでなく、それらの障害に配慮せずに作られた社会の仕組みも大きな原因となっています。近年、「障害者差別解消法」の制定（平成25年6月）や「障害者権利条約」の批准（平成26年1月）など、国や国際社会において、障害を理由とする差別をなくす取り組みが進められています。

条例の制定を目指しています

市では、障害を理由とする差別の解消を推進するための条例づくりを進めています。平成26年6月より「仙台市障害者施策推進協議会」において、現状と課題の把握や差別解消に必要な視点の整理などを行ってきました。障害当事者や家族の意見を踏まえた条例にするため、障害者団体との意見交換や差別事例の募集、事業者へのヒアリングなども実施しています。今後、条例のあり方について、市民の皆さんからのご意見を募集する予定です。

誰もが安心して暮らせる社会に向けて私たちができること

差別と思われる事例の多くは、障害に関する知識不足やコミュニケーション不足が原因となっています。障害に対する誤解や偏見をなくし、お互いの人格や個性を尊重しながら、誰もが支え合う社会を目指しましょう。

●困っている方を見かけたら声を掛けましょう

障害のある方が困っている様子に気付いたら、「お手伝いしましょうか」と声を掛けましょう。

●必要な配慮は人それぞれ異なります

困っていることや求めている内容は一人一人違います。どんな配慮が必要なのか、具体的に確認しましょう。障害のある方が遠慮している場合もあるので、「どうしましたか」と声を掛けるなど、伝えやすい雰囲気を作りましょう。

●障害のある方は「特別な人」ではありません

障害は、誰にでも起こり得ることです。特別扱いするのではなく、あくまでも対等な立場で、同じ目線で接するようにしましょう。

●交流の場に参加しましょう

障害のある方と直接接することで、理解を一層深めることができます。イベントや交流会などに参加してみましょう。



障害のある人もない人もみんなで話し合う「ココロン・カフェ」

障害による差別の解消を進めるための条例づくりに、さまざまな立場や年代の市民に参加してもらおうと昨年10月から開催している「ココロン・カフェ」。障害のある人となない人が知り合い、お互いに理解を深め、意見交換ができる場として、これまで12回開催しています。



◆ココロン・カフェ☆スペシャルを開催します

日時	内容
10/24 (土)	13:30~15:30 障害当事者や事業者、地域等における取り組みから共生社会のあり方について考えるシンポジウム
	15:40~17:00 参加者によるグループワーク

- 会場＝せんだいメディアテーク
- 託児（未就学児）・手話通訳・点字資料・要約筆記付き（いずれも要申し込み） 申電話またはファクス（住所、氏名、電話番号と託児または手話通訳等の希望の有無を記入）で10月19日までに（託児、手話通訳等を希望の方は10月14日までに）



仙台市障害理解促進キャラクター「ココロン」

障害のある方はこんなことに困っています（事例紹介）

市では、現状を把握するため、平成26年7月から9月にかけて、差別の事例や、配慮があつて助かった事例を収集。障害者団体との意見交換会や障害のある方および家族・支援者などからも直接お話を伺い、722件のご意見をいただき、596件の事例を確認しました。

差別事例:528件、配慮が得られた事例:68件

	分野	差別	配慮	合計
①	周囲の理解	143	10	153
②	交通	54	7	61
③	建物・道路・駐車場等	50	3	53
④	就労・労働	41	6	47
⑤	商品・サービス提供	32	12	44
⑥	医療	33	10	43
⑦	福祉サービス等	29	10	39
⑧	教育	36	1	37
⑨	不動産取引	26	1	27
⑩	情報・コミュニケーション	13	2	15
	上記以外	71	6	77
	計	528	68	596

■障害を理由とする差別の事例

- 車いすで店に入ろうとしたら「車いすの人は入店できない」と事情の説明もなく断られた
- アパートを借りようとしたら、障害がある人には貸せないと断られた
- 採用の面接で障害があることを告げたら、障害者は採用しないと断られた
- 盲導犬を連れてタクシーに乗ろうと呼び止めたが、「犬はお断り」と乗車拒否された

■配慮があつて助かった事例

- 点字ブロックの上に物があつて困っていたら、子どもたちが進んでどけてくれたので大変助かった〔視覚障害〕
- 買い物のときにホワイトボードに書いて商品の説明をもらったので助かった〔聴覚障害〕
- 買い物をするとき、店員の方がドアを開けてくれたり、商品を取ってくれたりして非常に助かっている〔肢体不自由〕



寄せられた事例等については、市ホームページhttp://www.city.sendai.jp/d01/1215966_1433.htmlをご覧ください

この特集に関するお問い合わせ、ココロン・カフェ☆スペシャルの申し込みは障害企画課 ☎214・8163、FAX223・3573、Eメールfuk005330@city.sendai.jp